

Annual Report 2023

2023年度年次報告書 | 2023.09-2024.08



ACE
-児童労働のない未来へ-
認定NPO法人ACE

ごあいさつ

おかげさまで今年もみなさんに1年間の活動報告ができる事、たくさんのご支援に心より感謝申し上げます。日本では、子どもの権利やセーフガーディングの普及、沖縄での活動がどんどん広がりました。ガーナでは児童労働フリーゾーンの制度構築を支援する新たな委託事業がスタートしたほか、企業をはじめとする日本の方々が力カオ生産地を訪ねる機会が増えた1年となりました。力カオ農家や子どもたちと直接会話を交わし、五感を通じて現場のリアリティに触れたことが原動力となって、連携することの重要性がより認識されていることを感じます。SDG8.7の期限である2025年を来年に控えた今、世界の児童労働撤廃に向けた力をさらに結集することができるよう、引き続き取り組んでまいります。みなさまのさらなるご支援、ご協力をどうぞよろしくお願ひいたします。

ACE 副代表 / 共同創業者
白木朋子

ACE 代表 / 共同創業者
岩附由香



ACE の活動理念

ACEは、団体のパーパス、フィロソフィー、ウェイに基づき、ガーナの力カオ生産地で危険な労働から子どもたちを守る活動を行いながら、児童労働を生まない社会構造をつくるために企業や政府とも協働しています。近年は日本での子どもの権利の普及にも取り組んでいます。

Purpose | ACE のパーパス | 究極的な存在意義

世界の力を解き放つ
—子どもたちに自由の力を。すべての人に変革の力を—

Philosophy | フィロソフィー | 理念

平和、豊かで持続可能な世界をめざします Peaceful, Prosperous and Sustainable World

世界は生きるに値するすばらしい場所である。人は誰でも存在する価値があり、無限の可能性を持っている。ひとりひとりの多様性や違いを認め合い、可能性を開花させること、未来を見据えて社会と自然環境が共生することで、平和で、豊かで持続可能な世界が実現できる。

子どもの今と未来を最優先します Children First

誰でも子どもから人生をスタートさせる。子どもは人類社会にとって新しいエネルギーの源泉である。子どもは未来、今を生きる存在である。子どもの権利と豊かな人生を保障するのは、今を生きるすべてのおとなの責任である。

内側からの変革を起こします Change starts from within

誰にでも、社会を変える力、どんな大きな困難をも乗り越える潜在的な力がある。あらゆる変化は人の内側から起こる。意識が変わることで行動が変わり、大きなシステムを動かす。子どもや若者には変革を生む力があ

Way | ウェイ | 行動指針

システム思考 System Thinking

あらゆる社会課題はすべてつながっている。部分最適ではなく全体最適をめざす。対症療法ではなく、根本的な解決をめざす。

権利ベースアプローチ Rights-Based Approach

根本的な解決を実現するための考え方として人権、権利をベースとしたアプローチを採用する。国際条約で定義されている義務と責任を、それぞれの関係者が果たすよう働きかけ、促す。

対話、エンゲージメント、パートナーシップ Dialogue, Engagement and Partnership

問題解決に不可欠なのは対話とエンゲージメント。お互いの違いを理解し、対話することで、まだ見えていない新たな解を見出すことができる。変化を起こすために、目的を共有する様々な組織や個人とのパートナーシップを重視する。

学習する組織 Learning Organization

組織として、複雑性から学び、前例や思い込みにとらわれない、今までにないイノベティブな解決策を創造する。個人のビジョンと成長が、組織のビジョンと成長の源泉となり、学び進化し続ける組織を追求する。

夢を描き、可能性を見出し、信じて、行動し続ける Dream, Discover, Believe, Do

大きな夢を描き、自分の持つ強みや可能性に気づき、機会を捉えて一步を踏み出す。自分や他者が持つ力、社会は変えられることを信じ、困難があっても小さな前進を喜びながら、大きな変革を起こしていく。

2023年度の成果トピックス

児童労働・子どもの権利侵害の背景には様々な問題があります。子どもを取り巻く家庭や学校などコミュニティのレベルから、グローバルな政治経済に関わる問題まで、複雑な要素が絡み合っています。ACEはこれらの社会課題を「システム」として構造的に捉え、それぞれの関係者に対して多岐に渡る活動を行っています。



スマイル・ガーナ プロジェクト P5

学校給食や学用品支給で出席率 98% を達成

今年は力カオの収量が激減しており、農家の家計も苦しい状況ですが、プロジェクトの支援地域では出席率平均98%を維持し、児童労働の増加を食い止めることができます。



ピース・インド プロジェクト P8

現地住民主体の活動をフォロー

コットン生産地でのプロジェクトは2023年8月に終了し、現地住民に引き継ぎました。今年度は終了したプロジェクトの評価などフォロー活動を行いました。



日本の子どもの権利推進 P9

子どもの権利条約の批准30周年 こども家庭庁大臣に提言書を提出



日本政府が子どもの権利条約に批准して30周年。広げよう！子どもの権利条約キャンペーンでは全国子どもアンケートを実施し、その結果を踏まえて作成した提言書をこども家庭庁大臣に手交しました。

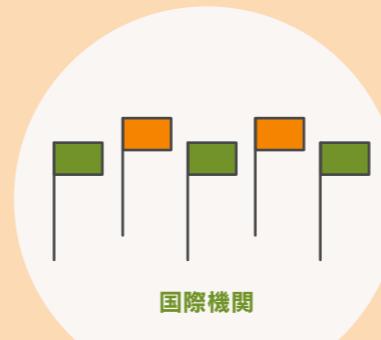


啓発・市民参加 P11



講演活動で 3,685 人に伝えました

講演やワークショップを通じて児童労働や子どもの権利への理解が深まり、社会全体の意識向上に貢献することができました。



アドボカシー P8

ビジネスと人権の文脈でも 日本の児童労働を課題と認識

国連「ビジネスと人権作業部会」による日本に関する報告書の中で、ACEがこれまで繰り返し伝えてきた日本国内の児童労働についても課題として明記されました。



JICA 委託事業（児童労働フリーゾーン） P7

ガーナで事業開始 2 郡 191 村を調査

児童労働のない社会をつくるための国のしくみをガーナで機能させるため、国際協力機構(JICA)からの委託事業を2024年2月に開始。村の現状を調査し課題が見えてきました。



組織運営 P12

より働きやすく
自律的に活動できる組織に
新しいパスワードを策定したほか、人事評価制度の刷新、事業区分の見直し・再編成などを行い、各スタッフがより有機的、効果的に活動することができるよう、組織の体制を整えています。



25 周年記念事業 P13

アニダソチョコレート発売

ACE支援地で採れた力カオを使った「ANIDASO(アニダソ)」チョコレートを、様々な方のご協力を得て企画・販売、多くのメディアにも取り上げられました。



「しあわせへのチョコレート」プロジェクト

子ども若者支援事業 スマイル・ガーナ プロジェクト

力カオ生産地の子どもを危険な労働から守り、
児童労働に頼らない持続可能な力カオ生産を実現

「将来は医者になってお母さんを見てあげたい」夢を支える給食支援と学用品支給

子どもの保護と教育:学校環境の改善と学用品の支給

2023年8月から、学校運営委員会やPTAと共に学校給食を運営しています。給食導入以前は多くの子どもが空腹で授業に集中できなかったのですが、現在は給食が子どもたちの集中力向上に貢献しており、教員からも好評です。

2024年6月には、困窮した家庭の子ども80人に学用品を支給しました。

ヘレンさん(仮名)は、力カオ農園で働いているのを住民ボランティア(CCPC)が見つけたのがきっかけで、毎日学校に通うようになりました。通学には往復3時間かかります。夜は懐中電灯で宿題をしており、将来の夢は「医者」になること。病気のお母さんを診てあげたいのだそうです。



CCPCメンバー(左)とヘレンさん(中央)とお母さん(右)

学校の出席率が平均98%に！

地域の能力開発:児童労働の監視・予防システムの構築

プロジェクトが支援している2村では、プロジェクト開始前の中学校の出席率は57～66%でしたが、2024年7月時点で平均98%にまで向上しました。

今年はガーナを含む西アフリカでの異常気象や害虫の被害、森林伐採、違法な金鉱採掘などが原因で、力カオの収量が激減しています。力カオ農家の収入減が続くと、教育に投資するお金がなくなり、子どもを働かせる家庭が増えることが懸念されますが、支援地では、CCPCによるコミュニティ内の見回り活動や、学校給食・学用品の支援などにより高い出席率を維持できています。



100人以上の農家に研修を実施、収入UPへ

貧困家庭の収入向上:農業研修の実施

力カオ農家の経済的安定性を高めることを目的に、子どものいる力カオ農家(特に女性)42人に4か月間の稲作研修を、60人に1週間の力カオ栽培研修を実施しました。

参加者からは、「稲作からの収入で子どもたちの教育費を稼ぎたい!」「今まで力カオ農園で農薬をなんとか使っていたが、いつ、どのように散布すればよいのかが分かった」といった声が聞かれました。



プロジェクト概要

Sustainable Management of cocoa farm and Improved Life via Education for the elimination of child labour

	実施期間・地域	2009年～2018年 アシャンティエ州アチュマンプニュア郡 2018年～現在 アハフォ州アスナフォ・サウス郡
これまでの実績	12の村とその周辺集落にて、624人の子どもを児童労働から解放し、4,596人の教育環境を改善	
パートナー団体	CRADA (Child Research for Action and Development Agency)	

ソーシャルビジネス推進事業

企業の児童労働撤廃に向けた理解と取り組みの促進

スタディツアーを通じて力カオ産業の課題への理解を促進

「開発途上国におけるサステナブル・カカオ・プラットフォーム」*1を通じた、マルチステークホルダーによる連携の推進

プラットフォームの会員向けのスタディツアーの企画・運営を国際協力機構(JICA)より受託し、2024年3月に実施しました。力カオ農園や現地のチョコレート工場の訪問、児童労働をしていた子どもと親との対話などを通して、企業、NGO、政府、国際機関など、様々な関係者と共に現状と課題への理解を深めることができました。



日本企業の力カオ調達地で児童労働をなくす仕組みづくりが進む

グリコ サステナブル・カカオ・プログラム

ACEは2022年より、江崎グリコのガーナの力カオ調達地で児童労働フリーゾーン認定要件(P7参照)に準じた仕組みを構築する活動を実施しています。支援地7村において、児童労働を監視・改善するための仕組みづくりや、支援が必要な家庭への学用品支給、住民への啓発活動、行政機関と連携してコミュニティの規則や活動計画づくりを推進しました。



チョコレート企業と力カオ農家や子どもとの対話や学びを推進

森永製菓社員によるラーニング・ジャーニー



「1チョコ for 1スマイル」*2を通じて支援いただいている森永製菓の社員3名がACE支援地を訪問する「ラーニング・ジャーニー」を実施しました。学校や力カオ農園での子どもや住民との交流や、政府関係者などの対話を通じて、現状や課題への理解が深まる機会となりました。

*1 開発途上国におけるサステナブル・カカオ・プラットフォーム

社会的・経済的・環境的に持続可能なカカオ産業を実現するために、NGOや企業、政府機関など多様な関係者が、課題の解決に向けて共創・協働する場。

*2 1チョコ for 1スマイル

パートナーへの寄付を通じて、カカオの国の子どもたちを支援する活動。ACEは2011年よりパートナー先として連携。

JICA委託事業

ガーナ共和国・児童労働フリーゾーンを通じた子どもの保護主流化プロジェクト

児童労働のない社会をつくるための国のしくみをガーナで機能させる

2024年2月よりガーナでの活動を開始

「児童労働フリーゾーン(以下CLFZ)」認定制度の普及と改善に向けた支援として、国際協力機構(JICA)の委託事業^{*3}を受注し、2024年2月からガーナでの活動を開始しました。

CLFZとは、児童労働の予防と解決のための仕組みが整っている地域をさします。ガーナ政府が策定したガイドラインに定められた認定要件を満たしている地域(ゾーン)を、国がアセスメント(審査)を通じてCLFZとして認定し、これを国全体に広めていくことで児童労働の撤廃をめざしています。



191の村を調査し、現状と課題を把握

郡でのワークショップとコミュニティ調査



CLFZの認定要件には、7つの大項目があります。例えば、児童労働を監視・改善するコミュニティレベルの仕組みがあつて機能しているか、行政との連携体制があるか、学校環境が整っているかなどです。このプロジェクトでは4つの郡で実験的に活動を進めていく計画ですが、そのうち2つの郡で調査を実施し、191の村の現状を把握しました。今後この調査結果を踏まえて、CLFZ認定要件を満たしていくための活動を2つの郡で進めています。

イベントを通じて、児童労働撤廃に向けた連携の加速を国内外にアピール

多様な関係者が連携するしくみの構築

国際機関や企業、NGOなど多様な関係者が連携するしくみの構築も進めています。2024年3月には、国際労働機関(ILO)、ユニセフ、国際ココアイニシアチブ(ICI)、JICAがガーナ雇用労働省と共同で、イベントを開催。ガーナの児童労働撤廃に向けた連携を加速させていくことを国内外にアピールしました。

またこのイベントには「開発途上国におけるサステナブル・カカオ・プラットフォーム」(P6参照)のメンバーも参加するなど、日本の企業等関係者にも、現地での連携の動きを肌で感じてもらうことができました。



*3 児童労働フリーゾーンを通じた子どもの保護主流化プロジェクト

アイ・シー・ネット株式会社、デロイト トーマツ コンサルティング合同会社、ACEの三社による共同事業体を結成(2024年1月~3年間の契約期間)して受託した、国際協力機構(JICA)の委託事業。

アドボカシー事業

政府と世論に働きかけ児童労働のない仕組みづくりを 国連ビジネスと人権作業部会が、日本の児童労働を課題と認識

2023年に日本に来日した国連「ビジネスと人権作業部会」が2024年5月に最終報告書を発表しました。これまでヒアリングや働きかけを通じACEが繰り返し伝えてきた国内の児童労働についても課題として明記されました。この発表にあわせてヒューマンライツ・ナウが主催した記者会見にも登壇しました。政府から独立した国内人権機関が日本にないことでも、課題としての認識が高まっています。



設立20周年記念シンポジウム開催 多様な関係者のアクションを加速させる場に

児童労働ネットワーク



6月の「トップ! 児童労働キャンペーン」期間に合わせ、ACEが事務局を務める「児童労働ネットワーク」主催のシンポジウムを開催しました。特別ゲストとしてILO(国際労働機関)サポーターの歌手・荻野目洋子さんをお招きし、児童労働に対するご自身の経験や強い思いを語っていただきました。

子ども若者支援事業 ピース・インド プロジェクト

コットン生産地の子どもを危険な労働から守り、 地域住民による「児童労働のない村」の自立的な維持を支援する

プロジェクト評価の実施など、現地活動をフォロー

本プロジェクトは2023年8月に終了し、現地NGOに活動を引き継ぎました。これまでの活動のフォローアップとして、プロジェクトの評価のまとめや、プロジェクト実施地での事後モニタリング、住民ボランティアグループの活動支援等を行いました。

プロジェクト概要

Promoting community Engagement for Assisting Change from child labour to Education in cottonseed production area in India

	実施期間・地域	2010年4月~2023年8月 インド テランガナ州
	実施期間・地域	6つの村にて、952人の子どもを児童労働から解放、15~17歳の女の子335人を職業訓練により支援、3,500人以上の教育環境を改善
	パートナー団体	SPEED (Society for People's Economic and Educational Development)

日本の子どもの権利推進

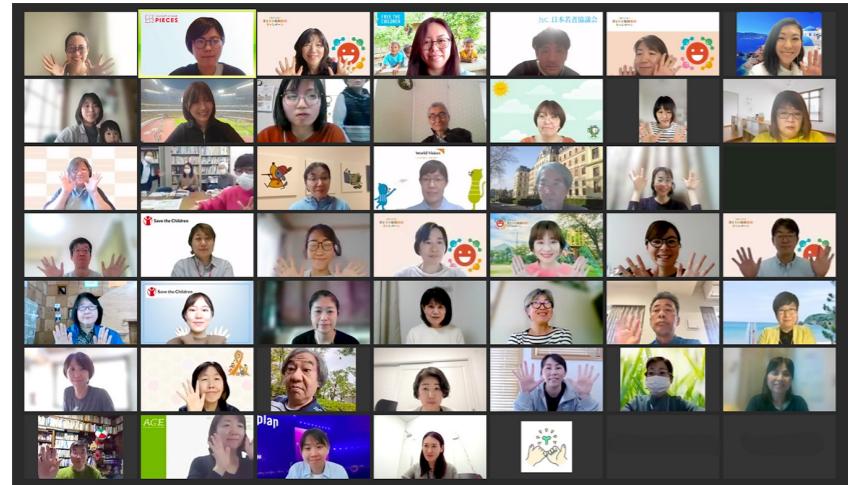
日本で子どもの権利が守られ、子どもがエンパワーされる社会を実現

広げよう！子どもの権利条約キャンペーン

子どもに関する活動を行う団体や個人が連携して、子どもの権利の実現と普及をめざしていくムーブメントです。ネットワーク構築、政策提言、啓発等の活動に取り組んでいます。

国連子どもの権利条約に日本が批准して30周年！記念イベント開催

1994年に日本政府が国連子どもの権利条約を批准して30年目となる4月22日(条約批准日)に、イベントを開催しました。子どもの権利の保護・充足・救済とその普及に取り組んできた8名の登壇者と共に、この30年を振り返りながらこども基本法施行をうけて大切にしたい視点、活かしたい機会などが報告されました。また本キャンペーンで実施した子どもの権利に関する全国アンケートを基に作成した提言書も発表し、今後日本全体での子どもの権利推進、市民社会団体のエンパワーメントにつなげていこうとする機運が高まる機会となりました。



△参加者アンケートの声△

子どもたちの圧倒的な声として「自分たちの声が聞かれていない」という状況があるということが強く印象に残りました。

おとな(親、学校の先生、行政など全般的に)の子どもの声を受け止めるスキルの向上が重要であると改めて考えました。

「子どもが権利を使うことができる社会をつくるために」 子どもの声と共に作成した提言書をこども家庭庁大臣に提出

こども家庭庁大臣表敬訪問による提言書手交と意見交換会

キャンペーンの活動の一つ、子ども自身が政策決定者に声を届ける「子どもメガホンプロジェクト」において、子どもの権利に関する全国アンケートを実施し、その結果をもとに提言書を作成し、こども家庭庁大臣へ提出しました。

△子どもメンバーからの感想△

直接、こども家庭庁大臣と職員の方と話をして、意見交換をしたり、何が検討されているか知ったりすることができてよかったです。



*4 子どものセーフガーディング

組織の関係者・活動において、子どもにいかなる危害も及ぼさないよう予防や対応を組織の責任として取り組むこと。つまり虐待・搾取など、子どもの権利を侵害するような行為や危険を防ぎ、安心・安全な活動と運営をめざす取り組みです。

沖縄うまんちゅ子どもの権利推進プロジェクト

沖縄県の子どものウェルビーイング向上を目指して、NPO法人沖縄青少年自立援助センターちゅらゆいと一般社団法人URUFULLとの協働で、子どもの権利を子どもたちに直接伝える活動と、おとな向けの実践研修などを行っています。

「わたしらしさを大切にする子どもの権利ワークショップ」 うるま市内の小学校3校9クラスで実施

子どもたち自身が子どもの権利を知り、自己肯定感を高め、自己を表現できるようになることを目的に2023年にACEが開発したワークショップをうるま市内の小学校3校で実施しました。内容は、共感的コミュニケーションの考え方を取り入れて、一人一人が持つ「気持ち(感情)」とその奥にある「大切にしたい願い(ニーズ)」を探したり、「子どもの権利条約」と「こども基本法」を紹介し、事例を通じて子どもの権利にはどんな権利があるかを学んだり、意見を表明するために具体的にどうしたらいいか、自分の気持ちと願いを大切にする、自分らしいメッセージをつくることにチャレンジしてもらいます。



授業後、子どもの権利があるとどんな気持ちになるか尋ねると、「安心する」「うれしい」「ほっとする」という声があり、また「(権利が)こんなにいっぱいあるなんてびっくりした!」「自分でいいんだよという権利があってうれしかった」という感想もありました。

「子どもの権利実践研修」うるま市、沖縄市、本部町、那覇市にて開催し111名が参加



子どもに関わるおとなが子どもの権利を尊重した行動・対話ができるようになることを目的とした研修を実施しました。子どもの権利条約やこども基本法についての講義だけでなく、実践的なコミュニケーション方法や他の地域の先進事例、セーフガーディングについて学ぶ内容になっています。

参加者からは、「自分がこどもだった事を思い出す事で当事者として考える体験ができた。人権含め日頃当たり前にこのような話ができる環境をつくりたい」と思えた。などの感想がありました。



子どものセーフガーディング*4 の普及

子ども食堂・居場所運営者を対象に研修を実施

子ども支援に関わる団体を対象に、子どものセーフガーディングの普及・導入支援を行っています。本年度は、各地域の子ども食堂・居場所運営者を対象にした研修の実施とガイドブック製作を行いました。



日本の児童労働の予防

子どもたちが違法な労働に巻き込まれないよう啓発資料を普及、少年院で研修実施

子ども自身や子どもに関わるおとなに、児童労働を予防するための知識を伝えるための啓発資料「働く人を守るルール」等を、沖縄県を中心に配布、またSNS発信を継続しました。大阪市の浪速少年院の職員向けにACEの資料を副教材とした授業プログラムについて研修を行いました。



啓発・市民参加事業

市民一人ひとりが児童労働解決や子どもの権利推進の担い手となる

参加者の2人に1人が「アクションをしようと思った」と回答。

今年は、3,685人に伝えました！

出前授業や講師派遣で、子どもや市民の意識を高める活動を積極的に行いました。参加者のアンケートでは、社会問題に対して行動起こすきっかけになったという声が多くありました。



わたしらしさを大切にする子どもの権利ワークショップ

日本の子どもやおとな向けに子どもの権利を伝えるワークショッププログラムを開発しました。沖縄県の3つの公立小学校と、子どもの権利普及活動を行っているおとなを対象に3回実施し、参加者の様子やアンケート結果などをもとにワークショップの内容をさらに改善・改良することができました。



／参加者の感想／

誰にでも変化は起こせるという言葉が心に残った。何でも自分から行動を起こしてみようと思った

今私たちの年齢でできる活動というのは限られているけれど募金などの小さな積み重ねが大事なことに改めて気づくことができました。また、おとなになるまでにたくさん英語などの多言語を学び世界に児童労働や飢餓、貧困などについて世界に伝えて少しでもなくなるようにしていきたいです。

組織運営

市民にエンゲージ(応援)してもらえるコミュニケーションと組織づくり

自己組織化組織の導入により、自律的な運営が定着

自己組織化組織として進化

各部署・各個人が自律的に動くことで組織の目的達成を実現する「自己組織化組織」を組織運営の方法として導入してから2年目となり、独自のミーティング方法や意思決定プロセスによる運営が定着しました。

新しい人事評価制度を導入

ACEのWAY（行動指針）に基づいて自己・他者評価を行い、自己評価と報酬が連動する人事評価制度を本格導入しました。

スタッフ合宿を実施

国内・海外の様々な地域に在住するスタッフが対面・オンラインで一同に会する2泊3日の合宿・集合研修を実施しました。スタッフ同士の関係性を深め、研修を通じて自身を振り返る機会となりました。



1,300人以上の方にご支援いただきました

2023年10月開催の「東京レガシーハーフマラソン2023」と2024年3月開催の「東京マラソン2024」にてチャリティランナーのサポートを行いました。両大会を通じて、277名以上のチャリティランナーから6,500万円以上のご支援をいただきました。

5~6月にはクラウドファンディング「社会の『仕組み』を変えることで、児童労働を生まない世界をつくる！」を実施し、目標金額1,500万円を達成することができました。



ウェブサイトと団体カラーをリニューアル

公式ウェブサイトをリニューアルし、スマホ等でも閲覧しやすくなりました。また、団体設立25周年とバーパスの改定に合わせ、団体のシンボルカラーもライトグリーンにリニューアルしました。

主なメディア掲載実績

2023年

- 10月19日 共同通信
11月14日 朝日新聞デジタル
12月12日 東京新聞

2024年

- 1月17日 日経新聞
1月18日 NHK大阪
1月22日 朝日新聞
7月16~18日 朝日新聞

カカオ原産地で横行する児童労働、「ブラックサンダー」は撤廃目指し調達先を変更
ビジネスと人権、企業とNGOの連携が必要な理由とその方法とは？
児童労働なくす「希望」のチョコ

ガーナの児童労働撤廃を支援できるチョコレート
「ほっと関西」ええやん！バレンタインチョコ「持続可能もトレンドに」
with Planet 児童労働なくす、NGO協力の成功例
現場へ！カカオの希望を探して「甘いチョコに苦い現実、児童労働をなくす
日本のNGOからの提案」ほか、4日間の連載



引き続きオンラインショップも運営！

ACEオリジナル教材や売り上げの一部が寄付になる商品を販売。来年度は、オリジナル教材のダウンロード版も登場予定です。ぜひご期待ください！

設立 25 周年記念事業

25年間の感謝を伝え、新しいACEとして再出発

ANIDASOO(アニダソ)チョコレート発売



UPDATER、立花商店、クラウン製菓、チョコレートジャーナリストの市川歩美さんと連携し、支援地産のカカオを使つた「ANIDASOO(アニダソ)」チョコレートを企画販売しました。近鉄百貨店やチョコレート専門店で販売され、NHKや日経新聞の大手メディアでも取り上げられました。

ANIDASOO(アニダソ)チョコレート

アニダソとは、ガーナのチュイ語で「希望」という意味。ACEが支援するガーナの村で収穫された児童労働のないカカオを使用。1枚あたり500円がACEへの寄付に。ブロックチェーン技術を使うことで、カカオ生産地から私たちの手に届くまでの一連の流れ(サプライチェーン)を見える化。専門家や企業の協力で、デザインもおいしさも追求しました。

いまのACEを解き明かす、1日限定のACEフェス

10月7日に設立25周年記念イベントとして「ACEフェス」を開催しました。ACEにゆかりのあるゲストとスタッフが組織づくりをテーマにトークセッションや体験ブースを行い、ACEの「現在」をお伝えしました。

会場協力 Deloitte Tohmatsu Innovation Park



ジャパンSDGsアワード受賞記念「世界の力を解き放つ」シン・ACEお披露目パーティを開催

ACEは2023年3月に、SDGs達成のために優れた取り組みを行う団体等を表彰する「第6回ジャパンSDGsアワード」の「SDGs推進本部長(内閣総理大臣)賞」を受賞しました。この賞の受賞と団体設立25周年を記念して、12月8日にパーティを開催しました。

25周年を機に再定義したACEのパーパス(存在意義)や ANIDASOO(アニダソ)チョコレートをお披露目しました。

パーティには以下の企業よりご協賛いただきました。心より御礼申し上げます。

森永製菓株式会社 / 有楽製菓株式会社 / 株式会社ストラップス & カンパニー



企業との連携 ACEへの支援になる商品・取り組み

ACEは、さまざまな企業・団体等と連携し、売上の一部を寄付いただくなどのご支援をいただいています。その一部をご紹介します。

森永製菓「1チョコ for 1スマイル サマーキャンペーン」 SNSやイベント参加が寄付に

2011年からACEを支援パートナーとして継続してご寄付いただいている森永製菓の「1チョコ for 1スマイル」が、初の試みとしてサマーキャンペーンを実施。期間中のSNSでのリポストなどやイベントへの参加がACEへの寄付につながるというキャンペーンが実施されました。



セブン-イレブン等でACEへの寄付つきチョコが販売

セブン&アイ・ホールディングスによる商品原材料の産地支援の取り組みとして、対象商品の売上の一部がACEへの寄付になる「セブンプレミアム」のチョコレートが、2023年秋と2024年夏にセブン&アイグループのセブン-イレブン等で販売されました。取り組み開始時の記者発表会には副代表白木も参加しました。2024年秋冬以降も商品が販売される予定です。



その他 ACEへの支援になる商品・取り組み



フェリシモ「幸福のチョコレート®」



ファンケル「ショコラ プー・ラ・ポーテ ピスターシュ」(販売終了)



wellty chocolate



ZERO PC「想うプロジェクト」



書籍
『ビジネスと人権』基本から実践まで



LOTTADESIGN. のシューズ



iFree オールカントリー(全世界株式)
ESGインデックス(愛称:未来へつなぐ
オールカントリー(ミラカン))



寄付型自動販売機



有楽製菓「ブラックサンダー」ほか



みんな電力「ACEでんき」



つくるカバー「SDGsエコバッグ」



詳しくはこちら

ご支援いただいたみなさま

2023年度多くの個人・企業・団体のみなさまにさまざまな形でご支援をいただきました。
あたたかいご支援に、こころより感謝申し上げます。

＼寄付者の方から寄せられた声／



大竹 哲郎さん

一般社団法人エス・インパクト 代表理事
株式会社F&L アソシエイツ 代表取締役
今年の6月に、ACE代表の岩附さん、
スタッフの赤坂さんの出張に同行してガーナに行き、ACEと現地のパートナー団体CRADAの活動を視察させていただきました。

現地の力カオ農家の暮らしや労働環境がたいへん厳しく、家族のために働いている子どもたちがたくさんいるということがよくわかりました。そのような中で、ACEとCRADAの活動は、単にお金や物を届けるというものではなく、子どもたちが学校に行くことができる環境を整え、それを継続的に維持することができるコミュニティーの仕組みを作るというものであることがわかりました。行政、地域、学校、親たちが連携して児童労働撤廃に取り組む仕組みづくりに努めていることに感銘を受けました。ACEの支援が確実に現地に届き、現地の人たちの暮らしを変え、子どもたちに笑顔と健やかな成長をもたらしているということがわかりました。

そうしたことを学び、私自身これからもACEの活動を応援していくよう改めて心に決めました。子どもたちの未来のために、皆さんも一緒に取り組みましょう！



塚田 智宏さん

弁護士・ニューヨーク州弁護士
(森・濱田松本法律事務所)
(元 経済産業省ビジネス・人権政策調整室 室長補佐)

児童労働の解決に向けたACEさんのアクションや熱量に心を動かされます。児童労働は、生まれた国や家庭の貧しさ等の先天的な事情を背景とし、教育を受けるという「当たり前」の権利すら子どもたちから奪い取ってしまう、深刻な人権課題です。私たちの憲法は、「全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有する」と謳い、日本だけでなく「全世界」の国民のことを考えており、こうした憲法の下、日本政府が開発途上国への支援を行っています。しかし、政府も万能ではなく全ての課題を解決することはできません。ACEさんは、支援が十分に行き届いていない子どもたちに現場で寄り添い、専門家として現地の人々や政府の心を動かし、着実に課題を解決し続けています。

子どもの権利サポーターのみなさんから
「支援のきっかけ、教えてください！」

世界中の子ども達は私達の宝物だと思います。一人でも多くの子ども達が毎日笑顔で過ごせるように願っています。

多くの人が幸せを感じる未来を作るために子どもの教育が一番大事と思うから。



個人会員・寄付

正会員121人 賛助会員50人 子どもの権利サポーター 436人 一時寄付723人

ACEを支えてくださる企業・団体（一部紹介 *五十音順・敬称略）



アイディール・リーダーズ
株式会社



芥川製菓株式会社



株式会社UPDATER



江崎グリコ株式会社



株式会社オウルズ
コンサルティンググループ



株式会社神奈川ナブコ



株式会社クラウン製菓



株式会社セブン＆アイ・ホールディングス



大東建託グループ
みらい基金



株式会社立花商店



つると合同会社



一般財団法人デロイト トーマツ
ウェルビーイング財団



公益財団法人
トランスクスモス財団



日本生活協同組合連合会



公益財団法人庭野平和財団



株式会社フェリシモ



不二製油グループ本社株式会社
・不二製油株式会社



森永製菓株式会社



株式会社ファンケル

株式会社あおい不動産アドバイザーズ / 株式会社アバンティ / 井関産業株式会社 / 株式会社ウイルウェイ / AJ株式会社 / MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社 / 株式会社エンゼルの森 / OrangeOne株式会社 / 京都インターナショナル株式会社 / 小林メリヤス株式会社 / 株式会社小宮コンサルタンツ / サタディズ株式会社 / 山陽製紙株式会社 / 医療法人社団桐友会 / 株式会社ジャパンタイムズ / 株式会社新藤 / SU小ACCEを支援する会 / 株式会社セレスポ / 仙台ACE支援書道教室 / 仙台児福会同窓会 / ダイナメディックジャパン株式会社 / 高島屋労働組合 / 有限会社チェンジ・エージェント / 特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス / 東京八王子ロータリークラブ / 株式会社フードリボン / 株式会社フクイ / Bright Funds / 社会保険労務士法人 法改正研究所 / 株式会社ホソヤ / みちのくボートクラブ / 宮城学院中学校高等学校 / UAゼンセン / 株式会社ライザンフォスターホールディングス / 一般社団法人LIFE IS ROSE / ロッタデザイン株式会社

*紙面の都合により、法人会員と、5万円以上の寄付をいただいた団体・法人のみ掲載しています。

その他の協賛・協力
株式会社セールスフォース・ジャパン / アクセンチュア株式会社 / NexTeams合同会社 / 近鉄百貨店 / 株式会社ストラップス&カンパニー / 森・濱田松本法律事務所 / タカシマヤー粒のぶどう基金 / 西武信用金庫 / 株式会社デジタルキューブ / ZERO PC / Brand Pledge / ブックオフコーポレーション株式会社 / 買取大吉モノ募金

公益財団法人トランスクスモス財団さま

「子どもの権利と豊かな人生を保障するのは、今を生きるすべてのおとの責任」という理念に賛同し、支援をさせていただきました。

沖縄にて、親子が参加して子どもの人権について考えるワークショップを実施し、参加者からも「新しい発見がたくさんあった」「参加してよかったです」という声が多数ございました。今回の活動を通じて、子どもの人権に対する認識はまだ広がっておらず、大人の都合だけで物事を考えてしまうケースが多々あることを再認識いたしました。これからも持続可能な社会の実現のため、活動を応援させていただきます。

ACE 組織概要

設立 / 認証年月日	1997年12月1日 設立 2005年8月8日 東京都よりNPO法人に認証 2010年3月31日 国税庁より認定NPO法人として認定 2015年1月19日 東京都より認定NPO法人として認定 2020年4月28日 東京都より認定NPO法人として認定
事業内容	子ども・若者支援事業 / アドボカシー事業 / 啓発・市民参加事業 / ソーシャルビジネス推進事業
受賞歴	・第6回ジャパンSDGsアワードの「SDGs推進本部長(内閣総理大臣)賞」(2023) ・『Forbes JAPAN』2022年5月号「さまざまな課題に挑み、ともによき社会へ。すぐれた非営利団体30選」選出(2022年) ・第2回 The Japan Times Satoyama & ESGアワード「特別賞」(2020) ・第8回若者力大賞「ユースリーダー支援賞(団体部門)」(2017) ・平成26年度「消費者教育教材資料表彰」最優秀賞、平成27年度同優秀賞(2016) ・第5回エクセレント NPO 大賞「市民賞」(2016) ・第4回日経ソーシャルイニシアチブ大賞「国際部門賞」(2016) ・NGO組織強化大賞「女性スタッフの登用・活躍部門賞」(2016)
スタッフ	職員 18名(正職員 11、短時間正職員 4、契約職員 3) / 業務委託 5名 / インターン 2名
役員	理事 12名(岩附 由香 / 小林 裕 / 白木 朋子 / 新谷 大輔 / 宮本 聰 / 丹羽 真理 / 羽生田 慶介 / 筒井 敏孝 / 成田 由香子 / 杉山 綾香 / 田柳 優子 / 青井 彩乃) 監事 2名(大石 貴子 / 矢崎 芽生) *体制は2024年8月時点

ACE スタッフ

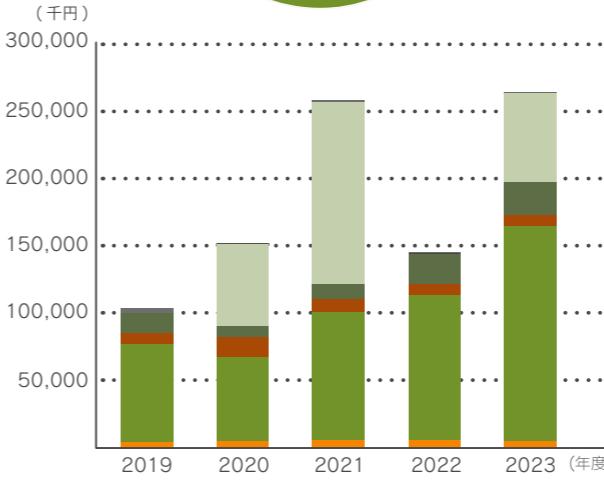
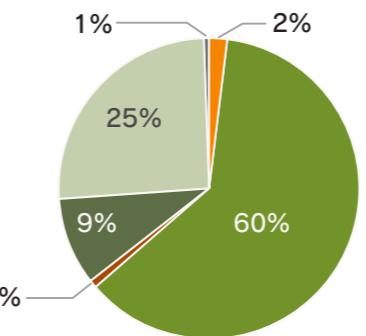


2023 年度会計報告

(2023年9月1日～2024年8月31日)

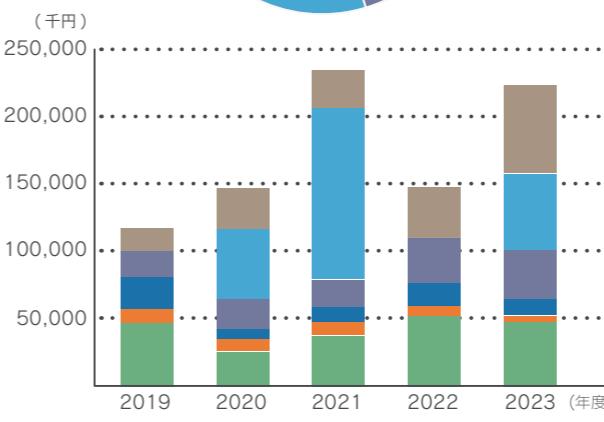
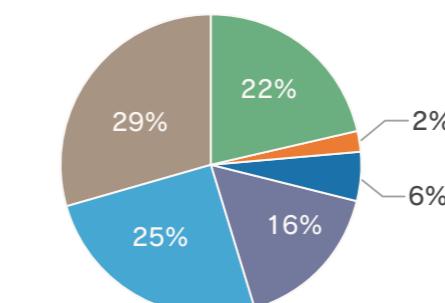
収入の内訳と推移

■受取会費 ■受取寄付金 ■受取助成金
■事業収益(自主事業) ■事業収益(委託事業) ■その他収益



支出の内訳と推移

■子ども・若者支援事業 ■アドボカシー事業
■啓発・市民参加事業 ■ソーシャルビジネス推進事業
■JICA ガーナ・カカオ・CLFZ ■管理費



財務状況の分析

当期は、経常収益が2億6396万円(予算比123%)、経常支出が2億2360万円(予算比105%)となり、当期正味財産増減額は4028万円の黒字となりました。東京マラソン2025チャリティの寄付額が大幅に増加したほか、クラウドファンディングでの1500万円の目標達成や遺贈寄付をいただいたことにより、計画していた寄付収入を大幅に上回る収入となりました。今後も引き続き、財務の安定化に努めてまいります。

活動決算書

単位：円

I 経常収益		
1. 受取会費	5,232,000	
2. 受取寄付金	159,190,163	
3. 受取助成金	8,502,310	
4. 事業収益	90,270,545	
5. その他収益	766,799	
経常収益計	263,961,817	

II 経常費用		
1. 事業費	47,699,806	
人件費	47,699,806	
その他経費	110,364,563	
事業費計	158,064,369	
2. 管理費	27,296,566	
人件費	27,296,566	
その他経費	38,241,771	
管理費計	65,538,337	
経常費用計	223,602,706	

当期経常増減額		
40,359,111		
III 経常外収益		
0		
IV 経常外費用		
0		

税引前当期正味財産増減額	40,359,111
法人税、住民税及び事業税	70,000
当期正味財産増減額	40,289,111
前期繰越正味財産額	36,075,911
次期繰越正味財産額	76,365,022

ACE の活動を 寄付 で応援してください



継続的なご寄付

継続的に支援いただくことで、見通しを持って安定した活動を行うための大きな力になります。

個人の方	子どもの権利サポーター 月々 1,000円から 利用方法 クレジットカード、自動引落し	
法人の方	法人会員 ・年会費 一口 50,000円から(企業) ・年会費 一口 30,000円から(労働組合・その他非営利団体) 会費のグレードに応じた特典をご用意しています。 利用方法 銀行振込、自動引落し	



今回のみのご寄付

1,000円から、お好きな金額と方法で。

寄付の使い道をご指定いただくことも可能です。

ACE募金 	活動や地域を指定せず、ACEが行うすべての活動をまとめて応援いただく募金です。
チョコ募金 	ガーナの力カオ生産地から児童労働をなくすための活動を応援いただく募金です。

利用方法 | クレジットカード、銀行振込、郵便振替



モノで寄付する

不要品の買取査定額がACEへの寄付になる「モノ寄付」では、送料・手数料など一切お金をかけずに寄付することができます。



Tポイントで寄付する

Yahoo!ネット募金では、クレジットカードのほか、Tポイントでも寄付ができます。



ACEは東京都から認定された「認定 NPO 法人」です。



ACEへのご寄付は、所得税、法人税、相続税などの税の優遇措置の対象となります。



認定NPO法人ACE

〒110-0005 東京都台東区上野六丁目1番6号御徒町グリーンハイツ1005号

*全スタッフ在宅勤務のため、こちらにACEスタッフはおりませんので、訪問はご遠慮ください。

TEL 03-3835-7555 (受付 | 平日 10:00 ~ 17:00) FAX 03-3835-7601



X (旧Twitter)



facebook



YouTube



LinkedIn

